

立川総合病院年報のご挨拶

新型コロナウイルス感染症対応が緩和されました。例えて言えば厳しい冬からうらかな春へとなっていく気分でしょうか。現時点では新潟県は人口当たりのコロナ感染による死者数が全国都道府県で最少でした。

この3年余りはコロナに追われ、気が付けば当院は移転後6年半経過、漸く振り返って見る心の余裕ができました。

病院は敷地内移転を想定した広大な駐車場、大雪でも機能できる「雪国仕様」、可能な限りの災害対策など他に類を見ない冒険的な設計でしたが、コロナ対応にも想定以上の機能を発揮してくれました。この冬の大雪でも問題なく機能しましたが、病院南側の東西道路が一時大渋滞となり、現在対策をお願いしているところです。

病院内部も迅速な診断・治療がストレスなく出来ることで患者さんや医療スタッフからは概ね高い評価を頂いております。今後さらに洗練された使い方を目指します。

さて、2022年度もコロナ対応が続きましたが、救急・急性期医療は棄損することなく一昨年始動した呼吸器センターは高い評価を頂いており、悠遊健康村病院透析施設も当院腎センターと協働してのコロナ対応含め活躍、令和5年も増床予定です。

年が明けた1月早々、消化器内科医師4名中3名が4月から引き上げるという通告がありました。事は長岡市、中越医療圏の特に救急医療をはじめとした地域医療に多大な影響が予測されました。そこで早速長岡市医師会、救急輪番病院である長岡赤十字病院、長岡中央総合病院と情報共有、4月以降の体制を協議して頂きました。迅速な対応に感謝感激、誠に有難いことです。

5月現在、消化器内科医増員の見通しはありませんが、今後行政と連携した特色のある寄付講座なども思案中です。振り返って見れば当法人は県外からの医師派遣も積極的にお願いして来ました。若い医師たちにとっても同じ病院・診療科内で他大学出身者とともに経験を積むことは新鮮で、他病院へ異動後の自然発生的なネットワークは将来にわたり得難い財産となると強調してきました。

最近企業でも「アルムナイ（退職者）ネットワーク」の大切さが強調されております。当法人でも特にこの点を強調していきたいと存じます。

令和5年度、立川メディカルセンターでは交代を含め医師21名、看護職40名はじめ63名の専門職員を迎えました。全職員にとって魅力ある法人となるよう引き続き努力してまいります。

本年度が皆様にとって実り多い良い年になることを心より願い、年報のご挨拶とさせていただきます。

令和5年5月31日

医療法人立川メディカルセンター

理事長 吉井 新平